

MJOT 会報

『セーカーチ・アンナ MJOT 代表挨拶』

みなさん 明けましておめでとうございます。

2002 年はハンガリー教師会にとって思い出深い年になりました。9 月のヨーロッパ日本語教育シンポジウムの開催は今までにない大きなイベントでした。1 年がかりで準備したシンポジウムは 26 ヶ国 150 余名の参加をえて成功裏に終わりました。実行委員をはじめ会員のみなさんに改めて感謝します。2002-2003 年度はセミナーの充実を図り、現場報告や発表など活発に活動が進んでいます。11 月からは語いリスト改訂作業が進み、今年 2003 年 1 月に完成しました。

交流基金事務所関係では岩澤アドヴァイザー帰国、齊藤アドヴァイザー着任、豊田所長離任、古屋所長着任と異動のあった年でした。新所長と新アドヴァイザーのご理解と協力を得ながら活動の充実を図って行きたいと思っています。

今年もどうぞよろしくお願いします。

2003 年 吉日

第 10 回日本語スピーチ コンテスト開催について

去る 1 月 30 日、第 6 回スピーチコンテスト実行委員会が基金にて開かれました。

スピーチコンテスト前の最後の実行委員会となり、運営に関する細かい点を実行委員全員で最終チェックしていきました。当日 MJOT からは審査員としてキシュ先生が参加します。

第 10 回日本語スピーチコンテストの開催についての詳細は以下の通りです。

日時: 2 月 22 日 (土) 12:30~16:00

会場: 日本大使館 多目的ホール

共催: 在ハンガリー日本大使館、
国際交流基金、JICA/JOCV

出場人数: 8 年生以下の部 3 名

高校生の部 20 名

大学生・一般の部 6 名

* 来場者は登録制になっておりますので、来場を希望される方は必ず 2 月 20 日 (木) までに所属機関、氏名を FAX または E-mail で大使館の白石さん宛にお知らせください。また駐車場の使用はできません。

3 月 17 日 (金) 17 時 30 分からは、基金にて反省会が開かれる予定です。次回のコンテストからは MJOT が主催になりますので、会員の皆様のご意見、次回への希望等をメーリングリストなどで是非お寄せください。よろしくお願いします。

2 月のセミナーの要旨が決定しましたのでお知らせします。下記要領にて開催しますので、ご参加ください。

日時 2 月 21 日 (金) 16:00-17:30

場所 国際交流基金第一セミナー室

テーマ 「様々な機能をもつネットワークの管理
モデル」

講演者 MJOT 海外会員 伊東 隆作

君はどう思う？

日本語教育界でも「教師養成ではなく教師成長！」という時代になってきています。自己を成長させるためには、まず己の姿を客観的に捉えることが必要ですが、そう言われてみても何をどうすればよいのやら…

そこで、ここではハンガリーで出版されている「チョークからビデオまで」という外国語教授法の入門書のQ&Aを読み、そこで自分自身が感じたことを「教師としての己の姿を客観的に見る」チャンスにしようと思います。さあ、あなたはどのように思いますか？

Q：ペア・グループ活動で、誰と誰を組ませればよいでしょうか。

A：これは活動によりますね。ドリル形式のものであれば、弱い子とできる子を組ませるのがいいでしょう。でも、メンバーを固定しないことが大切です。もう少し自由な活動の場合だと、ペアを組む生徒や学生に実力の差があると、お互いに力を発揮できにくくなります。こんな場合は弱い生徒にはまず教師がペアを組み、適切な指導をしてから別の生徒と組ませるのがよいでしょう。今「弱い子」という表現をしましたが、もちろんクラスでは「あなたは弱いから、この人と組んで」などと言ってははいけません。

Q：他の人より明らかによく出来る人にはどう接すればよいでしょう。

A：「グループを変える」というのが一番いいのですが、学校教育の場合はそれもできません。このような場合、この生徒には授業中あるいは宿題で別の課題を出すといいでしょう。ただ「よくできる」と見える人でも、実は基礎的な練習が必要な人も多いです。このような場合はこの生徒を教師の助手として使うのがよいと思います。(例を出してもらったりなど)

„A KRÉTÁTÓLA VIDEÓIG” 40/41 ページより。(若井)

最近読んだ本

「モラトリアムとしての学校と教育」福島真人
(1998)『教師像の再構築』岩波書店、191-211

《概略》

①最近、教育界では「師弟制」が1つのブームとなっている。これを理論的に蒸留したのがレイブ+ウェンガーの「状況的学習論」。(簡単にいうと、人間は自発的に状況を利用して学習しているという考え)

②しかし師弟制の場合、弟子は自発的学習意欲が高く、率先して親方の元に集まる。また学習と労働が直結しているという点で学校教育と大きく異なる。(生徒・学生のすべてが教師になるために勉強しているわけではないから。)

③また「状況的学習論」は学習の理論で、「教育」から「学習」を引き離す考え方であり、「教育—学習」で1つの形をなす学校教育にそのまま導入するのは混乱を招くだけ。

④こう考えると、学校教育とはそれぞれの生徒の持つ無限に多様な将来に対して、ある種の具体化へと導くためのもの。あるいは将来像を持ち得ない生徒・学生に対し、これを呈示する役割を持つとも考えられる。

⑤しかし、教師は教員養成を経て生産されており、この対応は実際には難しい。

⑥1つの可能性としては、生徒・学生が将来を決定するのを教師が側面援助するということがある。多種多様な未確定性に向かう生徒の側面支援はカウンセラーの仕事に似ている。

⑧ただ学校教育というのは半ば義務となっているのがカウンセラーより難しい点。(カウンセラーの元にはカウンセリングを受けたい人が行くが、学校はそうではない。)

⑨これを解決するには「学校は行きたい人が行くところ」にすることだ。(親方を見つけた人は学校へ行く必要はない。例えばバイオリン奏者になろうと師の元に通う人に学校教育は必要ないという社会をつくるとか)

(そんな社会が来るかなあ。若井)

語彙集改訂板完成によせて

1月末、『初級日本語—ハンガリー語 語彙集』が出来あがりました。

昨年、伊東さんから仕事を引き継ぎ、高校卒業試験終了後の6月に「高校卒業試験を考える会」を開きました。殆どの試験実施校から参加があり、卒業試験、前作の『初級日本語語いリスト 試用版』について活発な話し合いが持たれました。

『語いリスト』については一部の学校で試験会場への持ちこみ不可という結果がもたらされ、「なぜ不可であったのか。」が話し合われました。その結果、持ちこみ可とするために、使用目的を明確にし、本文以外の部分にハンガリー語を併記し、ハンガリーにおける書籍として通用するものにしようということになり、2002—2003年度の卒業試験に充分間に合うよう、年度内発行を目指して改訂を進めることになりました。

2002—2003年度に入り、10月、11月と会を重ね、改訂方針が決まりました。これについてはメールで詳しく報告してあるので、ここでは割愛します。作業はセーカーチ・アンナさん、ゲルゲイ・ユーリアさん、後藤史与さん、佐藤紀子さんが担当、相馬が改訂方針に従って直した物をチェックしました。もちろん分担作業でしたが、みんなで集まって情報を交換しながらの作業はなかなか効果的でありました。

はるか日本で、伊東さんが『語いリスト』の原板に修正した日本語部分を打ち込み、私がハンガリー語分の修正をし、最終的にはセーカーチ・アンナさんがチェック。話し合いの段階では、アドバイザーの齊藤さんの助言もあり、又若井さんは日本語能力試験基準に新たに加わった語彙の資料を提供してくれました。

その後本文以外の部分を書き加え、12月中旬に印刷所に原稿が渡りました。そして今1月下旬、本が刷りあがりました。この会報がみなさんの手に渡る頃は売り出されていることと思います。

文字どおり、ハンガリー人教師と日本人教師が、ハンガリー人学生のために協力して作った

物です。よりよい物ができたと思っています。語彙集に関連して、口頭試験用の語彙もプラスしたいという意見が出ています。これは次ぎの課題となっていくでしょう。

今回の改定作業を通して、改めてコンピューター、中でもエクセルとはなんと便利な物であるかと感じ入りました。実は私は今回初めてエクセルを扱ったのです。又どんな小さな物であれ、出版するということは大変なことだと分かりました。編集方針をきちんともっていないという物は出来ないということも分かりました。このため改訂について話し合いを重ねたことはよかったと思っています。それでもなお、初級用であるために踏みこめない部分があること、ハンガリー語と日本語の文法の違いからでてくる問題、語彙抽出基準から起こる表記の不自然さなど、作業しながら考えることが沢山ありました。

なにはともあれ、ハンガリー日本語教師会の力で本が出来上がったことをみなさんと一緒に喜びたいと思います。

2003年1月31日

相馬 笙子

語彙集販売のお知らせ

販売元：商科大学貿易学部東洋語科

価格：1冊 800～1,000円程度（未定）

なるべく皆様の手元に早く届けたいのと、需要について知りたいので、ご希望の方は早目に以下の情報を相馬（shoko@hu.inter.net）までご連絡ください。

1. 機関名と住所（機関名は詳しく）
2. 取り扱う先生のお名前
3. 注文冊数

尚、後ほど個人で購入したい方は、ブダペスト商科大貿易学部東洋語科（TEL467-7965）に直接お願いいたします。また、国際交流基金ブダペスト事務所図書館司書を通じての注文も可能です。（見本も置いてあります。）

相馬 笙子

平成 14 年度海外在留邦人 日本語教師研修に参加して

佐藤紀子

このたび、平成 14 年 11 月 20 日から 12 月 19 日まで北浦和の国際交流基金日本語国際センターで海外在留邦人日本語教師研修に参加する機会を得ました。私は今回二度目の研修参加でしたが、前回の 1991 年にも増して有意義な 1 ヶ月を過ごすことができました。

研修には世界各地から 30 名（内、女性 24 名、男性 6 名）が参加しました。参加者は、やってきた国も多彩なら、年齢も 20 代から 60 歳までと幅広く、個性的な方々ばかり。参加国を挙げると、アジアからはインドネシア、韓国、スリランカ、タイ、ネパール、フィリピン、マレーシア、オセアニアからはオーストラリアとニュージーランド、南北アメリカからは、アメリカ、カナダ、アルゼンチン、チリ、ブラジル、メキシコ、ヨーロッパからは、ハンガリーを始め、イタリア、オーストリア、スイス、スウェーデン、チェコ、ドイツ、フランス、ポーランド、ロシア極東、そしてアフリカからはケニアと、地球の端から端までをほとんど網羅。1 ヶ月間寝食を共にして和気藹々の雰囲気の中、互いに助け合いながら本当に楽しく学ぶことができました。

研修内容は、初等教育・中等教育・高等初級・高等中級の各クラスに分かれてのセミナー、文法、聴解、日本事情、IT、その他の全体講義の聴講のほか、30 名がそれぞれ独自に設定した課題研究と、多岐にわたるもので、研修の最後には課題研究の発表会もあり、その前日は徹夜で準備したという研修生も何人かいました。また、那須温泉での情報交流セミナーや日本語教育機関訪問、お茶会なども入り、盛り沢山のプログラムは大変有意義なものでした。

セミナーや課題研修担当の講師の先生方からは適切なご指導・助言を受けたほか、各種の新しい専門情報を得ることができました。また、IT 関連では専門知識を持った研修生が IT 不慣れ組に対してとても親身になって助言をしてくれました。研修生の一人に元全日本の体操選手

だった方がいらっしゃって、毎朝、早朝体操を指導して下さったことが忘れられません。研修生同士の情報交換は、夜のノミネーションにまで発展し、大いに盛り上がりました。自由時間の週末は、みな現代日本事情の探索に東京都内に散っていきました。

研修終了後もインターネットの掲示板を活用して、参加者のコミュニケーションが続いています。これからもいろいろな方から刺激がいただけるのではと期待しています。

研修内容及び私自身の課題研究については、後ほど MJOT のセミナーで具体的にご報告したいと考えております。本当に有意義な研修で、主催者の国際交流基金、また今回私の参加を後押しして下さった国際交流基金ブダペスト事務所に対し、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

メタって？

最近本を読んだりすると、やたら目につくのが「メタ」という言葉。「ほんまに、このメタって何やねん！」と頭をかきむしる毎日です。それで、この場をお借りして「メタ…」の言葉の意味を見てみました。

①「メタ言語」

言語を分析したり説明したり時に使う言語のこと。例えば「イケメン」の「メン」って何だ？というのを説明する時の表現がメタ言語的表現となるようです。（「イケメンのメンは men と面の意味がある」とか）

②「メタ教師」

教師に教える教師。学生時代の指導教官とか。

③「メタ認知」

見る・聞く・書く・話す・理解する・覚える・考えるというのが「認知」。認知活動を客観化するのが「メタ認知」。例えば単語を覚える時に「自分は文章で覚えるのがいい」と考えるのがメタ認知的活動となる。

（若井）

アドバイザーからのお知らせ

国際交流基金ブダペスト事務所
日本語教育アドバイザー 齊藤眞美

JFBP 新スタッフのご紹介と図書館の新開館時間のご案内

国際交流基金ブダペスト事務所 (JFBP) には、昨年12月よりボロミサ・ジョルトさんが新スタッフとして加わりました。日本語教育に関する業務も部分的に担当することがあります。新戦力を得て、ますます皆様のお役に立てるようがんばっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

またマイエル・イングリットさんとゼンタイ・ユディットさんはこれまで同様図書館司書兼業務アシスタントとして交代で勤務しています。図書館の開館時間を以下の通り大幅に延長して、皆様のご利用をお待ちしております。

図書館新開館時間: 月曜日から金曜日まで
9:00~12:30 および 14:00~18:00

アドバイザー室の図書貸し出し

アドバイザー室の日本語教育関連の図書及び教材も従来通り貸し出しを行っていますので、どうぞご利用ください。詳細は以下の通りです。

貸出期間

書籍.....2週間
カセットテープ/CD/
ビデオ等視聴覚教材.....1週間

※貸出冊数及び遠方よりお越しの方の貸出期間等、ご相談に応じます。

なお、いくつか期限を大幅に越えて未返却の図書・教材があります。お心当たりのある方は速やかにご返却くださいますよう、この場をお借りしてお願いいたします。

2003年の活動計画 その1 ー機関情報の収集と公開ー

JFBP では、アンケートを実施し、ハンガリーで日本語教育を行っている機関の調査を行う計画です。これはハンガリーにおける日本語教育の実態を把握し、広く日本語教育関係者及び日本語学習者に情報を提供することを目的に行うもので、毎年10月頃実施していく予定です。本年は実施初年に当たるため、例外的に第1回目を2月に実施した後、再度新学期の始まった10月に実施する予定です。何度もご手数をおかけして恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますようよろしくお願いいたします。

なお、国際交流基金（日本語国際センター：さいたま市）では、5年に1度全世界を対象に日本語教育機関の調査を実施していますが、上記の調査はこれとは別個の物で、5年に1度の調査では対象とされないような、より詳細な情報を毎年把握することを目的に、JFBP が独自に実施する調査です。

2003年の活動計画 その2 ーカリキュラム作成・改善に対する支援ー

着任以来機関訪問を重ねてきましたが、カリキュラム作成、あるいは改善の必要性を感じているという声が現場からはしば聞かれました。カリキュラムは、その機関の教育方針や到達目標を反映した骨格部分に相当し、日々の教室活動の内容、評価等を決定づける重要な物です。JFBP では現在、ハンガリーにおける初等、中等、高等等の各レベルの教育機関に対し、カリキュラム作成・改善に必要な情報を提供し、実際の作成・改善に向けた作業を支援していくべく方策を検討しているところです。カリキュラムに関心をお持ちの先生方には、ぜひこの機会に積極的に検討されることを期待しています。具体的な内容については追ってご連絡いたします。また、ご意見・情報等はいつでも受け付けておりますのでどうぞお寄せください。 以上

日本語教師に必要な カウンセリング技術(5)

小松慶子 (こまつよしこ)

元流山市教育委員会カウンセラー

カウンセラーに要求される態度条件

その3) 自己一致

「受容」と「共感」はクライアントとの関わり方を、「一致」はカウンセラー自身のあり方を示す。

一致ということはどういうことでしょうか。ロジャーズは「一致」という言葉を「純粋であること」「真実であること」「透明であること」などと言い換えています。

クライアントと人間関係をもっているときに、カウンセラーがありのままになることが大事です。とりつくろったり、仮面をかぶったりしないで何か自分以上のものに見せかけようポーズをやめ自分は自分として落ち着き専門家づらや個人的仮面をつけていなければいけないほど、クライアントも仮面を脱ぎ安心して建設的な姿勢で変化していくのです。

あるカウンセラーは、交通事故にあった子どものことを気にかけながら約束してあったクライアントと相談室に入りました。面談は進んでいきましたが、カウンセラーは子どものことが気になってしかたがないので、ついに途中で事情をうちあげ「すいませんが今日はこれでカウンセリングをうちきらせてほしい」と頼みました。するとクライアントは「ああ、あなたそんな事情があたりだったのですが。じつは今日は始めから変な感じでどうもうまいかず、これはいったいどういうわけなんだろうと、内心不思議に思っていました。私のことが原因だと気になっていたのですが、安心しました。」と言ったそうです。

カウンセラーは約束したカウンセリングだか

ら、よくクライアントのことを聞かねばならぬと思って応答しています。目に見え、耳に聞こえるところでは、そういうカウンセラーの態度がクライアントに伝わっています。一方カウンセラーは、じっさいは子どものことが気がかりでじっとしておれない感情を持っていました。これはカウンセラーによって言葉に表わされていませんでしたが、これもクライアントに伝わっていました。そして、言葉から伝わってくるものと、言葉にならないところで伝わってくるものとの間に矛盾があり、しかもそれが同時に来るものですから、クライアントは混乱、不安を感じていたのです。

クライアントの成長のために、カウンセラーはできるだけ一致していかななくてはなりません。つまり純粋であることを要求されているのです。

これは使える？ 情報

みなさんは「授業のネタ・アイデア」などをどんなところから仕入れていますか。

ブダペスト以外で日本語を学んだり、教えたりしている人を支援するために毎月発行されている「かりん」21号では次のような情報が紹介されています。(執筆者は伊東さん)

1) 出版社 PHP のホームページ

<http://eee.php.co.jp/fun/the21/index.html>

特にランキングのページは授業のネタにぴったりです。

2) MSN ホームページ

<http://journal.msn.co.jp/home.htm>

「ニュースなひとこと」というショートコラムが使えます。

私はメールマガジンの『日本語教師、あ・つ・ま・れ〜!』を斜め読みしています。会員の方は何を参考にしていますか。教えてください。

<http://www.kfcs2000.com/f/>

若井